

4. 「人にやる気・村に活気・地域づくり学習会」研修旅行 Pr4に参加して 『立梅用水』が安曇野の水の歴史を振り返らせてくれた

浅川 とよ子

今回の研修旅行でも盛りだくさんの現地視察を準備していただき、多くを学ばせていただきました。

『立梅用水』を中心にした旧勢和村水土里ネットの組織が、多彩なことに驚きましたが、高橋幸照氏のビデオ付きの説明を聞き、「あじさいの植栽」から始まって次第に各方面に広がっていった様子がよく理解できました。広がりの中には、次を予想した準備・研究に怠りのない立梅用水土地改良区の果たした役割の大きかったことが窺えました。きっとその中心は高橋氏、子供の頃の原体験の復元に努められたと言って居られましたが、劇団ほてい葵の主要登場人物も演じるとあっては、体が幾つあっても足りないほど多忙なのでは？

我が安曇野にも高橋氏のような方が居てくだされば、と、無い物ねだり、他力本願は止めましょう。

実際に見せていただいた丹生地区の立梅用水は、安曇野で幅数メートルの十ヶ堰を見慣れている目には何とも愛らしく映りました。それに続く谷あいの荒廃田数枚を復田して活用しているという農村ビオトープには、ホテイアオイの薄紫の花盛り、その下にはメダカが泳いでおり、春には蛍、秋にはトンボが群舞するという。視察日の霧雨の向こうに、親子連れで賑わう「ホテイアオイとメダカ祭り」が目に見えるようでした。

もちろん水土里ネットの方法をそっくり安曇野に当てはめて、事が成り立つ訳はありません。活用方法より何より、私自身、生まれ育った地でないにしても、縁あって終の棲家となった安曇野の水路について知らな過ぎたことに気付きました。宿泊先の「リバーサイド茶倉」のすぐ脇にある立梅用水の取水口を早朝に見学しましたが、十ヶ堰の取水口は見たことがない私でした。

まず研修旅行から帰宅後、十ヶ堰の成り立ちについても知識が曖昧なので、豊科郷土歴史博物館を訪ね「命の水 安曇平の水利史・豊科編」という最適の資料を紹介され、勉強しました。それから、1/25000 地形図で十ヶ堰の流路を調べ、取水口～流路末端を、流路沿いに整備された「安曇野やまびこ自転車道」の往復サイクリングをしながら見てきました。これまで自宅近くを散歩などするときは、登山を趣味とする私の視線は北アルプスの稜線や里山に向けられることがほとんどでしたが、標高約570mの等高線を辿るサイクリング中は、いくつかの扇状地から成り立つ安曇平の広さに目を奪われました。この広大な平らには、平安時代から江戸時代まで30を越える人工堰の開削と現代まで続いている改修とによって、余すところ無く水が行き渡り、今は県営灌漑排水事業により洪水の心配もなくなったとのこと。安定した稲作が確立するまでの先人達の水との長い戦いに思いを馳せるとき、柄にもなく胸が熱くなるのを覚え、この水の歴史は伝え残していきたいと思いました。(知らなかったのは不勉強な私だけということもありますが)

奇しくも立梅用水着工は1820年、十ヶ堰開削は1816年と同時期に行われたのであります。

研修旅行に話を戻します。1日目の昼食を戴いた農業法人せいわの里が営業する「まめや」は、出資者の30～70歳代女性35名が交代で勤務していることが画期的で、農家の仕事と無理なく両立していると思われます。地の利良く農村ビオトープの近くで大豆畑に隣接して、農家レストラン・体験工房・加工場・貯蔵庫が建っており、地元産の大豆を使った大豆製品の加工・販売、地元野菜などをつかった郷土料理(田舎料理)の提供、子ども教育を目的に大豆を使った料理体験工房が運営されているということで、客席の壁には小学生から書き送られた「まとめ」が掲示されていて微笑ましいものでした。30品目昼食バイキング中学生以上1000円、中学生未満は500円値段も手頃で、私達が訪れたのは金曜日でしたが、客席は満席の盛況でした。昔懐かしい味から工夫されたデザートまで、よく吟味された料理はどれも美味しく、湯飲みや取り皿は出資者の持ち寄りとのこと、物を大切に活かす姿勢が家庭的でした。

「まめや」駐車場からバスで20分ほど山手に入った多気町長谷の山の上に建つ「近長谷寺」は、続日本記にも記述のある平安後期建立の由緒あるお寺で、像高6.60mもある国宝十一面観音立像には圧倒されました。何十年も前から玉井先生の地域おこしのアドバイスで、麓の長谷地区の十数軒でお守りしていると話された代表者辻さんの奥様の穏やかな顔が、御利益を物語っているように見え思わずお守りを求めて帰りました。十一面観音像の表情は見る人により違って見えることから、玉井先生は「鏡に映る今日の顔は自分の顔、ご機嫌はやった顔、不機嫌はやらぬ顔」と新語録を下さいました。以来、気を付けてはいるのですが…。

「リバーサイド茶倉」の夕食後、オーナーを交えて研修会があり、夜の更けるまで「丹と神の道(飯南町・勢和村・多気町)ネットワーク活性化推進」を主体に議論が深まりましたが、睡魔に襲われもしました。オーナーが熱心に説いていた近隣地域の連携の効果は大きいと思われます。私の属している県営烏川溪谷緑地の存在も一般市民の認知度は今ひとつ。自然観察に、森林浴にととても良い環境ですので何か策を考えたいと思います。

2日目には西場三重県議のお世話で、伊勢神宮内宮垣内参拝までさせていただき、良い記念になりました。お陰様で斎宮歴史博物館や神宮徴古館・神宮農業館など、なかなか見学できないところを廻ることが出来、多方面から日本の来し方、そして地域のこれからの考える指標をいただいた研修旅行となりました。お骨折りいただいた松本大学地域総合研究センターの皆様へ深く感謝申し上げます。